

昭和 47 年 度

地力保全基本調査成績書

〔白糠地域 白糠町〕

北海道立中央農業試験場

37

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剥脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和47年度に行なつた8地域1市11町をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し富農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和47年12月

北海道立中央農場試験場

場長 和田 忠 雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取りまとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌統および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部第3課）による。
3. 土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	森	哲 郎
土 壤 改 良 科	科 長	後 藤	計 二
	第 1 係 長	高 尾	欽 弥
	研 究 職 員	水 元	秀 彰
	”	伊 東	輝 行
	”	木 村	清
	”	松 原	一 実
	”	橋 本	均
	第 2 係 長	山 口	正 栄
	研 究 職 員	小 林	茂 忠
	”	宮 脇	忠 雄
	”	山 本	晴 市 十 郎
	”	高 橋	晶 司
十 勝 農 試	”	上 坂	晃 二
”	”	菊 地	長 昭
”	”	関 谷	義 雄
北 見 農 試	”	横 井	喜 三 郎
上 川 農 試	”	秋 山	輝 義
”	”	野 崎	晃 郎
天 北 農 試	”	土 居	久 雄

1 調査地域一覽

調査地域名	該 当 市町村名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積(ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
十 勝 東 部	豊 頃 町	351	8,290	0	0	351	8,290
	池 田 町	912	7,049	0	0	912	7,049
天 塩	遠 別 町	937	1,804	0	0	937	1,804
石狩北部沿海	石 狩 町	3,627	1,958	0	0	3,627	1,958
十 勝 中 部	芽 室 町	83	21,350	0	0	83	21,350
厚 岸	厚 岸 町	0	2,675	0	0	0	2,675
白 糠	白 糠 町	0	2,991	0	0	0	2,991
空 知 北 部	深 川 市 (多度志町)	1,686	863	0	700	1,686	163
	沼 田 町	2,742	786	0	0	2,742	786
空 知 南 部	長 沼 町	8,059	2,706	0	0	8,059	2,706
	栗 山 町	2,812	4,908	0	0	2,812	4,908
	由 仁 町	1,777	4,403	0	0	1,777	4,403

白 糠 地 域

白 糠 町

1. 地 域 の 概 要

1) 位 置 お よ び 調 査 面 積

(1) 位 置 北海道白糠郡白糠町

(2) 調 査 面 積 (ha)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調査面積			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
白糠郡白糠町	0	2,991	0	2,991	0	2,991	0	2,991	0	0	0	0

郡市町村名	本年度調査面積				次年度調査面積				備 考
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	樹園地	普通畑	計	
白糠郡白糠町	0	2,991	0	2,991	0	0	0	0	完 了

2) 気 候

本地域は太平洋側の影響が多く、概して冷涼である。夏でも平均気温は20℃を越えることがない。しかし、冬季は季節風が吹くが雪雲は山岳にさえぎられ降雪は少ない。また東北海道特有の濃霧は海岸地域ではみられるが、内陸部ではその影響はほとんど見られない。

次に最寄の気象観測値として白糠観測所のデータをあげる。

白糠観測所

項目		月別						
		1	2	3	4	5	6	7
気温 (°C)	平均	-7.8	-7.1	-2.1	3.9	8.4	12.0	16.4
	最高平均	-1.2	-0.6	3.4	9.3	14.0	16.0	20.0
	最低平均	-14.4	-13.6	-7.6	-1.6	2.8	7.9	12.8
月降水量(mm)		4.2	3.0	4.6	5.6	9.7	8.9	10.0
日最大降水量(mm)		4.5	5.0	7.8	5.8	9.9	9.2	8.3
最深積雪(cm)		6.9	11.0	6.6	3.0	-	-	-
霧日数(日)☼		2.7	3.4	5.1	8.8	12.6	16.8	18.6
日照時数(時)☼		179.2	181.0	205.5	197.5	178.8	139.8	125.0

項目		月別					全年	統計年数
		8	9	10	11	12		
気温 (°C)	平均	19.1	15.8	10.1	3.0	-3.4	5.7	20年
	最高平均	23.0	20.5	15.6	9.0	2.4	11.0	"
	最低平均	15.1	11.1	4.5	-3.0	-9.2	0.4	"
月降水量(mm)		11.8	14.9	11.1	5.5	5.5	94.8	"
日最大降水量(mm)		9.8	10.5	9.0	4.8	6.5	10.5	"
最深積雪(cm)		-	-	-	1.2	6.0	11.0	"
霧日数(日)☼		19.1	13.0	9.9	3.7	2.7	116.4	30年
日照時数(時)☼		136.0	155.6	188.3	175.0	173.2	2035.1	"

初霜 10月7日 終霜 5月17日 (☼ 釧路気象台)
 初雪 11月22日 終雪 4月23日

3) 土 壤 条 件

(1) 地 形

本地域は耕地地形として三つに大別することができる。

i) 大平洋に流入する河川沿いに発達した沖積地帯

阿寒富士山麓に源を発する庶路川、茶路川、和天別川などの各河川に沿って形成された沖積地帯で、本町農耕地の過半を占めている。

ii) 標高20~200mの丘陵および段丘地帯

主として雌阿寒岳の火山灰が累積した軽しよな腐植質火山性土壌よりなる丘陵および

び段丘地帯。

iii) 泥炭地帯

現河川沿い発達した低位泥炭地帯で地下水位が高い傾向にある。

(2) 地質

本地域は地質的に阿寒、屈斜路カルデラ郡形成時の噴出物、主に軽石、火山灰あるいは熔結凝灰岩などの火山噴出物を基盤とし、その上を雌阿寒岳などを噴出源とする火山灰が累積した腐植質火山性土壌よりなる丘陵、段丘地帯と庶路川、茶路川、和天別川などの各河川沿いに形成された沖積地帯、泥炭地帯と大きく二つに分けることができる。

(3) 侵蝕状況

本地域の丘陵、段丘上の土壌の大部分は軽しよな腐植質火山性土壌であるが、栽培作物が牧草類のため水蝕、風蝕いづれもあまり発生をみない。

(4) 交通状況

本地域の西東を国鉄根室線が縦断し、またこれに平行して国道38号線が走っており、南北には道庁本別線が縦断し、産業道路の役割を果たしているため、交通便は左程度不便ではない。

4) 土地利用および営農状況

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	牧草地
6.1	0	0.8	0	5.3

(昭和45年度)

b) 経営規模別農家数(戸)

農家数	0.1ha~1.0ha	1.0ha~3.0ha	3.0ha~5.0ha	5.0ha~10.0ha	10.0ha~20.0ha	20.0ha~
529	53	91	98	213	65	9

(昭和45年度)

c) 主要農作物作付面積(ha)

牧草類	てん菜	馬鈴薯	青刈とうもろこし	えん麦	いんげん	人参	大根
2,623	73	45	40	23	13	13	12

(昭和44年度)

d) 家畜の種類および頭数

項目 \ 種類	乳牛	肉牛	馬	豚	めん羊	鶏
飼育戸数	417	54	333	10	5	233
飼育頭数	4,531	203	430	83	15	2,699
一戸当飼育頭数	10.9	3.8	1.3	8.3	3.0	93.1

(昭和45年度)

e) 施肥標準および目標収量 (Kg/10a)

作物 \ 要素	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	収量	備考
牧草(基肥)	4.0	20.0	8.0	2,000	5,000	既墾地
牧草(追肥)	8.0	8.0	18.0		5,000	2年目以降採草地
えん麦	4.0	8.0	8.0	1,000	280	
てん菜	15.0	22.0	14.0	2,500	5,000	
馬鈴薯	7.0	12.0	12.0	2,000	4,000	
大豆	0.5	8.0	8.0	1,000	240	

昭和46年 北海道施肥標準 (農務部)

※ 牧草類は火山性土、それ以外は沖積土を対象とする。

本町は釧路支庁管内の西方に位置し、乳牛を主体とする主畜経営が営まれているが、一般に一戸当り耕地面積が少く今後耕地面積の拡大をはかる必要がある。また、釧路という大消費地をひかえているので野菜類の生産も期待されている。

また、最近に至り農業近代化政策に伴い、大規模草地造成や国営、道営による草地改良等が実施され成果を上げている。

2 土壤類型区分および説明

1) 土壤統一覧および土壤区一覧

(1) 土壤統一覧

(畑)

土壤統一名	色層序	腐植層序	腐植層	礫層、砂層を混在する砂層	酸化沈着物	土性		母材	堆積様式
						表土	次層		
馬主	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	なし	壤質	強粘質	非固結火成岩(火山灰)	風積(火山性)積
大平	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性)積
高台	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性)積
泊別	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性)積
末広	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性)積
御仁田	YR/YR	表層腐植層	あり	あり	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性)積
左股	YR/YR	表層多腐植層	あり	あり	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性)積
縫別	YR/YR	表層多腐植層	なし	なし	なし	壤質	強粘質	非固結火成岩(火山灰)	風積(火山性)積
恋問	YR/YR	表層腐植層なし	あり	あり	なし	壤質	砂質	非固結火成岩(凝灰質)	水積(扇状堆土)
川西	YR/YR	表層腐植層なし	なし	なし	なし	壤質	粘質	非固結火成岩(火山灰)	風積(火山性)積
本郷	YR/Y	表層腐植層	なし	なし	あり	強粘質	強粘質	非固結水成岩(泥)	水積(河成)
新興	YR/YR	表層腐植層なし	なし	なし	なし	粘質	壤質	非固結水成岩(泥)	水積(河成)
東茶路	YR/YR	表層腐植層なし	なし	なし	あり	粘質	粘質	非固結水成岩(泥)	水積(河成)
和天別	YR/YR	全層多腐植層	なし	なし	なし	壤質	※泥炭	非固結火成岩(火山灰)	風積(火山性)積

(2) 土 壤 区 一 覧

(畑)

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面積 (ha)	ページ	備 考
馬 主 来 — 馬 主 来	Ⅱ tfns	2 9 0	6	
大 平 — 大 平	Ⅲ fs Ⅱ tn	3 1 0	1 0	
高 台 — 高 台	Ⅲ fn Ⅱ ts	1 5 0	1 3	
泊 別 — 泊 別	Ⅲ tfns	1 9 0	1 7	
未 広 — 未 広	Ⅱ tfns	2 0 5	2 1	
御 仁 田 — 御 仁 田	Ⅲ fn Ⅱ t i e	9 0	2 5	
左 股 — 左 股	Ⅱ dfnis	4 5	2 8	
縫 別 — 縫 別	Ⅱ tfns	1 7 5	3 1	
恋 問 — 恋 問	Ⅲ t(Wfn) Ⅱ i	2 0	3 5	
川 西 — 川 西	Ⅱ a	7 5 0	3 9	
本 郷 — 本 郷	Ⅱ tpwa	2 0 6	4 2	
新 興 — 新 興	Ⅱ a	2 3 0	4 5	
東 茶 路 — 東 茶 路	Ⅱ twna	1 5 0	4 8	
和 天 別 — 和 天 別	Ⅲ wn Ⅱ tfa	1 8 0	5 1	

2) 土 壤 統 別 説 明

畑

馬 主 来 統

(1) 土 壤 統 の 概 要

A 土 壤 統 の 特 徴

A-1 断 面 の 特 徴

第 1 層は厚さ 15 ~ 20 cm で腐植含量 11 ~ 13%、土性は L である。色は 10 YR で明度、彩度ともに 1 ~ 3 である。礫なし、発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度 1.9 ~ 2.1 中で。pH (H₂O) 6.0 前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1 a、2 a 層。

第 2 層は厚さ 15 ~ 20 cm で腐植含量 16 ~ 18%、土性は Li C である。色は 10 YR で明度 2 ~ 4、彩度 1 ~ 2 である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度 1.8 ~ 2.0

で疎～中。PH (H₂O) 5.7前後。下層との境界平坦判然である。

第3層は厚さ10～15cmで腐植含量13～15%、土性はSiLである。色は7.5YRで明度、彩度ともに2～4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔富む。ち密度17～19で疎～中。PH (H₂O) 5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。

第4層は44cm以下で腐植を欠く、土性はLである。色は7.5YRで明度4～6、彩度7～8である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙小孔富む。ち密度17～19で疎～中。PH (H₂O) 6.0前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 白糠町馬主来(試坑134)

第1層	0～15cm	腐植に頗る富む。灰褐色(10YR2.5/2)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度20で中。PH (H ₂ O) 6.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第2層	15～30cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR3/1)のLiC。礫なし。発達弱度の細塊状構造、小孔含む。ち密度19で中。PH (H ₂ O) 5.7。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第3層	30～44cm	腐植に頗る富む。黄褐色(7.5YR3/3)のSiL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔富む。ち密度18で疎。PH (H ₂ O) 5.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第4層	44cm～	腐植を欠く、黄褐色(7.5YR5/8)のL。礫なし。発達中度の塊状構造。小孔富む。ち密度18で疎。PH (H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	6.1		8.8	39.3	41.4	10.5	L			6.70	0.43	1.6	11.6
2	15～30	12.3		5.9	30.5	38.1	25.5	LiC			9.89	0.54	1.8	17.1
3	30～44	17.3		7.9	38.8	53.3	0.0	SiC			7.83	0.46	1.7	13.6
4	44～	13.9		8.6	55.5	35.9	0.0	L			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.3	1.3	25.9	15.6	0.8	0.1	60.2	1.386	4.3
2	5.7	4.7	1.9	44.6	12.2	0.4	0.1	27.4	2.328	tr
3	5.8	5.0	1.3	45.2	6.0	0.4	0.1	13.3	2.480	1.4
4	6.0	5.5	0.6	21.7	2.5	1.3	0.1	11.5	2.382	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては大平統があるが、腐植層序、傾斜が異り、本統とは区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風 積（火山性）／洪 積

B 地 形 段丘上の緩傾斜地

C 気 候 年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林となつている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐燐などの土壌改良資材の増施をほかり、併せて深耕をおこない根圏域の拡大に努めること。

F 分 分

北海道白糠郡白糠町馬主来、大秋、橋西 - 下和天別、駒越、大沢、忍隠、大平、川島、緑、古潭

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
馬 主 来 一 馬 主 来	II t f n s

② 土壤区別説明

馬 主 来 統 一 馬 主 来 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	生	産	力	可	能	性	厚	等	級	さ	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
墾	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
生	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
産	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
力	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
可	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
能	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
性	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
厚	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
等	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
級	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
さ	効	土	の	層	の	際	の	厚	深	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
簡	略	分	級	式	II	t	f	n	s													

A 土壤区の特徴

この土壤区は馬主来統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は墾質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰多、苦土中、加里少、磷酸中、酸度弱で養分の豊否中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林となつている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いため深耕をおこなうこと、また石灰、熔燐などの土壤改良資材の増施に努め自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分 布

北海道白糠郡白糠町馬主来、大秋、橋西、下和天別、駒越、大沢、恋隠、大平、川島、緑古潭

記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和48年3月31日

大 平 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量7～9%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度1～3である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度22～24で中。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦判然である。Me-1a 2a層。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量10～12%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度20～22で中。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。

第3層は厚さ15～20cmで腐植を欠く、土性はCL(触感)である。色は10YRで明5～7、彩度7～8である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度19～21で中。下層との境界平坦漸変である。

第4層は4.4cm以下で腐植を欠く、土性はL～SL(触感)である。色は10YR、明度6～8、彩度7～8である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度18～20で疎～中。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 白糠町大平 (試坑143)

(畑)

第 1 層	0～15cm	腐植に富む。灰褐(10YR3/2)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度23で中。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-1a 2a層
第 2 層	15～26cm	腐植に頗る富む。黄褐(10YR3/4)のL。発達弱度の細塊状構造。小孔含む。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第 3 層	26～44cm	腐植を欠く、黄褐(10YR6/8)のCL(触感)。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔含む。ち密度20で中。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第 4 層	4.4cm～	腐植を欠く。黄褐(10YR7/8)のL～SL(触感)。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔含む。ち密度19で中。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	6.1		6.1	39.2	44.1	10.6	L			4.64	0.29	16	8.0
2	15~26	11.8		6.5	47.7	43.8	2.0	L			5.88	0.34	17	10.2

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.1	1.2	19.6	7.2	0.8	0.1	36.7	1,592	2.9
2	5.8	5.0	0.8	22.1	5.1	0.4	0.1	23.1	2,232	3.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては馬主来統があるが、腐植層序、傾斜が異り本統とは区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／洪 積

B 地 形

傾 斜 地

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。また一部は山林となっている。

E 農業上の留意事項

石灰、熔燐などの土壌改良資材の増施をはかり、併せて深耕をおこない根圏域の拡大に努めること。急傾斜地なので栽培作物の選択について留意すること。

F 分 布

北海道白糠郡白糖町大平、馬主来、和天別、川島、河原、大秋、橋西、

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
大 平 一 大 平	Ⅲ f s Ⅱ t n

② 土壤区別説明

大 平 統 一 大 平 区

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	土 表 効 率 厚 深 さ	表 土 層 難 含 量 易	耕 起 土 粘 着 性	(表 土 乾 硬 さ)	(土 地 乾 湿)	透 水 性	保 湿 性	自 然 沃 度	(固 定 力)	(土 層 塩 基 状 態)	養 分 状 態 否	置 換 性	" " "	有 効 量 要 素	(微 酸 度)	障 害 有 害 性	(物 理 的 障 害)	災 害 危 険 性	(地 冠 水 の 危 険 度)	傾 斜 度	(傾 斜 方 向)	(人 為 傾 斜)	侵 蝕 度	(耐 風 蝕 性)	(耐 水 蝕 性)		
Ⅲ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅲ 2 3 3 Ⅱ 2 2 3 2 1 2 Ⅰ 1 1 Ⅰ 1 1 Ⅲ 3 — — Ⅰ 1 1 2	t d g p			w				f		n				i	a	s											
簡略分級式	Ⅲ f s Ⅱ t n																										

A 土壤区の特徴

この土壤区は大平統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅い。有効土層は1m以上で深い。表土の土質は埴質のため耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低。作土の養分状態は石灰中、苦土中、加里少、磷酸中、酸度中で養分の豊否中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林となつている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いため深耕をおこなうこと、また石灰、熔燐などの土壤改良資材の増施に努め自然肥沃度の向上をはかる必要がある。また急傾斜地なので栽培作物の選択に留意する必要がある。

D 分 布

北海道白糠郡白糠町大平、馬主来、和天別、川島、河原、大秋、橋西

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和48年3月31日

高台統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量9~11%、土性はSiLである。色は10YRで明度彩度ともに2~4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり、ち密度15~17で疎。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ5~10cmで腐植含量7~9%、土性はSiLである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)6.3前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ5~10cmで腐植含量10~12%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに2~4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)6.4前後。下層との境界平坦判然である。

第4層は厚さ15~20cmで腐植含量1~3%、土性はLである。色は10YRで明度3~5彩度5~7である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度19~21で中。PH(H₂O)6.4前後。下層との境界平坦判然である。

第5層は43cm以下で腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに5~7である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度21~23で中。PH(H₂O)6.3前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 白糠町高台(試坑73)

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む。黄褐(10YR3/3)のSiL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第2層	15~23cm	腐植に富む。黄褐(10YR5/6)のSiL。礫なし。発達弱度の細

		塊状構造。小孔あり。ち密度 18 で疎。PH (H ₂ O) 6.3。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a 層。
第 3 層	23 ~ 28 cm	腐植に頗る富む。黄褐 (10 Y R 3 / 3) の L。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度 18 で疎。PH (H ₂ O) 6.4。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第 4 層	28 ~ 43 cm	腐植を含む。黄褐 (10 Y R 4 / 6) の L。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度 20 で中。PH (H ₂ O) 6.4。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第 5 層	43 cm ~	腐植を欠く。黄褐 (10 Y R 6 / 6) の L。礫なし。発達弱度の塊状構造。小孔含む。ち密度 22 で中。PH (H ₂ O) 6.3。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 15	6.1		6.7	34.9	47.5	10.9	SiL			5.90	0.42	14	10.2
2	15 ~ 23	10.6		6.6	45.0	45.5	2.9	SiL			5.01	0.35	14	8.7
3	23 ~ 28	13.8		7.9	56.7	35.4	0.0	L			5.86	0.41	14	10.1
4	28 ~ 43													
5	43 ~	12.3		10.0	46.1	39.7	4.2	L			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	0.6	22.5	8.8	0.4	0.1	39.1	1,546	5.0
2	6.3	5.3	0.6	21.7	7.2	0.4	0.1	33.2	1,982	4.1
3	6.4	5.3	0.3	31.7	8.8	0.4	0.1	27.8	2,312	4.1
4										
5	6.3	5.3	0.6	23.4	3.0	0.4	0.3	12.8	2,142	3.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては未広統があるが、下層の土性が異り、本統とは区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／洪積

B 地 形

段丘上の緩傾斜地

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。また一部は山林となつている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐などの土壌改良資材の増施をはかり、併せて深耕をおこない根圏域の拡大に努めること。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町高台、南大曲、二股、左股、松川

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 分	簡 略 分 級 式
高 台 ー 高 台	III t f n II t s

② 土壌区別説明

高 台 統 ー 高 台 区

示性分級式（畑）

土	表	有	表	耕	((土	((自	((養	(((障	(災	(傾	(侵	((
壇	効	効	土	表	表	表	透	保	湿	然	保	固	土	置	換	有	微	酸	有	物	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
生	土	土	の	土	土	土	地						層	性	性	量	害	害	理	冠	す	然	斜	為		水	風		
産	の	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	の	石	苦	加	磷		物	的	水	の	の	の		蝕			
力	層	層	粘	粘	乾	乾				沃	力	力	塩	灰	土	里	酸	要	質	障	害	危	危		蝕				
可	の	の	土	土	性	性	性	性	度	度	力	力	基	含	含	含	素	害	害	障	害	險	險		蝕				
能	厚	含	難	着	さ	さ	湿	度	度	力	力	状	量	量	量	度	度	有	害	害	險	險	方		蝕				
性	深	易	易	硬	湿	度	度	度	度	力	力	否	否	否	否	素	素	性	性	性	性	斜	斜	斜	蝕	性	性		
等	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易		
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級		
	t	d	g	p			w				f		n					i		a		s		e					
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	—	—	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
簡略分級式 Ⅲ f n Ⅱ t s																													

A 土壇区の特徴

この土壇区は高台統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低。作土の養分状態は石灰中、苦土少、加里少、磷酸中、酸度弱で養分の豊否少である。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。また一部は山林となつている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いため深耕を行なうこと。また石灰、熔燐などの土壤改良資材の増施により自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分布

北海道白糠郡白糠町高台、南大曲、二股、左股、松川

記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験所）

日付 昭和48年3月31日

泊 別 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量18～21%、土性はSiLである。色は10YRで明度1～3、彩度1～2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度18～20で疎～中。pH(H₂O)5.1前後。下層との境界平坦判然である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ1～5cmで腐植含量19～21%、土性はSiLである。色は10YRで明度1.7～2、彩度1～2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度17～19で疎～中。pH(H₂O)5.1前後。下層との境界平坦明瞭である。

第3層は厚さ1～5cmで腐植含量3～6%、土性はSiLである。色は7.5YRで明度、彩度ともに3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度21～23で中。pH(H₂O)5.1前後。下層との境界平坦明瞭である。

第4層は厚さ10～15cmで腐植含量13～16%、土性はLである。色は10YRで明度1～3、彩度1～2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度20～22で中。pH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦明瞭である。

第5層は厚さ20～25cmで腐植含量4～6%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。0.3～0.5cm程度の未風化細円礫を含む。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度20～22で中。pH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦判然である。

第6層は53cm以下で腐植を欠く。土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに5～7である。0.3～1cm程度の未風化細円礫に富む。発達弱度の塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度22～24で中。pH(H₂O)5.5前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 白糠町泊別 (試坑13)

第1層	0～11cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR2/1)のSiL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。ち密度19で中。pH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-1a、2a層。
第2層	11～12cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR1.7/1)のSiL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度18で疎。pH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。

第 3 層	12~15cm	腐植を含む。黄褐(7.5YR4/4)のSiL。礫なく。発達弱度の細塊状構造。小孔含む。ち密度2.2で中。pH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第 4 層	15~29cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR2/1)のL。礫なく。発達弱度の細塊状構造。小孔含む。ち密度2.1で中。pH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第 5 層	29~53cm	腐植に富む。黄褐(10YR4/4)のSL。0.3~0.5cm程度の未風化細円礫を含む。発達弱度の細塊状構造。小孔含む。ち密度2.1で中。pH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第 6 層	53cm~	腐植を欠く。黄褐(10YR6/6)のSL。0.3~1cm程度の未風化細円礫に富む。発達弱度の塊状構造。小孔含む。ち密度2.3で中。pH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~11													
2	11~12	10.1		0.4	39.7	52.2	7.7	SiL			12.06	0.56	2.2	20.9
3	12~15													
4	15~29	9.2		19.9	33.6	41.1	5.4	L			8.54	0.50	1.7	14.8
5	29~53	8.6		34.1	44.7	20.2	1.0	SL			3.00	0.20	1.5	5.2
6	53~	7.0		34.5	38.4	20.7	6.4	SL			-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1										
2	5.1	4.4	8.2	51.1	3.7	3.2	0.1	7.2	2.312	2.3
3										
4	5.2	4.5	8.0	40.9	2.5	1.3	0.2	6.1	2.400	1.6
5	5.5	4.8	2.0	18.8	0.5	0.3	0.1	2.7	2.088	1.9
6	5.5	4.7	1.9	15.8	0.4	0.8	0.2	2.5	1.716	6.5

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統としては御仁田統、左股統があるがそれぞれ堆積様式が異り、それぞれ本統とは区別される。

A-3 母材

非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／洪積

B 地形

傾斜地

C 気候

年平均気候 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている、また一部は山林となっている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐燐などを増施し併せて深耕を行なうこと。

F 分布

北海道白糠郡白糠町泊別、宮下

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
泊 別 一 泊 別	III t f m s

② 土壌区別説明

泊 別 統 一 泊 別 区

示性分級式（畑）

土	表	有	表	耕	(((土	((自	(養	((((障	(災	(傾	(侵	(((
壤	効	効	土	土	表	表	表	地	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	災	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
生	土	土	の	の	土	土	土	の	水	水	潤	然	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	冠	す	斜	為	水	風							
産	層	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	性	冠	す	斜	為	水	風							
力	の	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	性	冠	す	斜	為	水	風							
可	の	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	性	冠	す	斜	為	水	風							
能	の	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	性	冠	す	斜	為	水	風							
性	の	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	性	冠	す	斜	為	水	風							
厚	の	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	性	冠	す	斜	為	水	風							
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	素	度	性	冠	す	斜	為	水	風								
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ				
	t	d	g	p		w		f		n								i		a		s						c					
Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	2	4	3	Ⅲ	3	1	3	2	1	3	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅲ	3	—	—	Ⅰ	1	1	2
簡略分級式 Ⅲ t f m s																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は泊別統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力大、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低。作土の養分状態は石灰少、苦土多、加里少、磷酸強で養分の豊否少である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。また一部は山林となっている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いため深耕を行なうこと。また石灰、熔燐などの土壤改良資材の増施により自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分布

北海道白糠郡白糠町泊別、宮下

記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

日付 昭和48年3月31日

未 広 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量9~11%、土性はLである。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。礫なく。発達中度の平板状構造。孔隙小孔あり。ち密度20~22で中。pH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦漸変である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ2~5cmで腐植含量9~11%、土性はSiLである。色は10YRで明度2~4、彩度1~2である。礫なく。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度15~17で疎。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦判然である。

第3層は厚さ10~15cmで腐植含量3~6%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なく。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔富む。ち密度18~20で疎~中。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦判然である。

第4層は厚さ5~10cmで腐植含量10~12%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに2~4である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔富む。ち密度15~17で疎。pH(H₂O)6.2前後。下層との境界平坦判然である。

第5層は厚さ5~10cmで腐植含量2~4%。土性はLである。色は7.5YRで明度3~5、彩度5~7である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔富む。ち密度15~17で疎。pH(H₂O)6.2前後。下層との境界平坦判然である。

第6層は45cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに5~7である。礫あり程度。発達中度の塊状構造。孔隙小孔富む。ち密度16~18で疎。pH(H₂O)6.0前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 白糠町未広(試坑18)

第1層	0~18cm	腐植に頗る富む。灰褐色(10YR3/1.5)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。小孔あり。ち密度21で中。pH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。Me-1a、2a層。
第2層	18~21cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR3/1)のSiL。礫なし、発達中度の細塊状構造。小孔含む。ち密度16で疎。pH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。

第 3 層	21~33cm	腐植を含む。黄褐(10YR4/4)のSiL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔富む。ち密度1.9で中。pH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第 4 層	33~40cm	腐植に頗る富む。黄褐(10YR3/3)のL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔富む。ち密度1.6で疎。pH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第 5 層	40~45cm	腐植を含む。黄褐(7.5YR4/6)のL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔富む。ち密度1.6で疎。pH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第 6 層	45cm~	腐植を欠く。黄褐(10YR5.5/6)のSL。礫あり程度。発達中度の塊状構造。小孔富む。ち密度1.7で疎。pH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	4.8		5.8	40.4	42.6	11.2	L			6.14	0.49	13	10.6
2	18~21	8.6		6.7	36.0	45.5	11.8	SiL			6.30	0.47	13	10.9
3	21~33													
4	33~40	10.3		8.2	54.0	37.2	0.6	L			6.52	0.45	15	11.3
5	40~45													
6	45~65	8.9		7.1	62.2	26.8	3.9	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.9	1.3	17.7	6.3	0.5	0.1	35.6	1,238	7.2
2	6.0	5.1	1.3	29.2	10.5	0.4	0.1	36.0	2,080	3.8
3										
4	6.2	5.1	1.3	33.9	7.5	0.3	0.0	22.1	2,214	2.5
5										
6	6.0	5.0	1.3	20.8	5.1	0.4	0.1	24.5	1,938	3.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては高台統があるが、下層の土性が異り、本統とは区別される。

A-3 母材

非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／洪積

B 地形

緩傾斜地

C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている、また一部は山林となつている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐燐などの土壌改良資材の増施をはかり、併せて深耕をおこない根圏域の拡大をはかること。

F 分布

北海道白糠郡白糠町未広、暁、泊別、神の沢、住良、滝ノ上、左股、右股、二股、上茶路、南上茶路、縫別、御仁田

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
未 広 一 未 広	II t f n s

② 土壌区別説明

未 広 統 一 未 広 区

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	((土	((自	((養	(((障	(災	(傾	(侵	((
壤	生	効	土	土	表	表	土	透	保	保	固	土	置	置	有	微	酸	有	物	地	傾	自	傾	人	侵	耐
産	産	土	土	土	土	土	地	水	水	潤	肥	肥	層	分	効	効	害	害	冠	す	然	斜	為	水	耐	
力	力	の	の	の	の	の	水	水	度	力	力	の	性	性	加	燐	質	害	の	べ	の	の	傾	傾	風	
可	能	厚	難	粘	乾	乾	性	性	度	力	力	塩	石	灰	里	酸	無	性	危	危	傾	傾	傾	傾	風	
能	性	等	深	性	性	性	性	性	度	力	力	基	灰	里	酸	性	性	險	險	方	方	方	方	風		
性	等	等	深	性	性	性	性	性	度	力	力	基	灰	里	酸	性	性	險	險	方	方	方	方	風		
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	
	t	d	g	p		w		f		n						i		a		s				e		
簡略分級式 t f n s																										

A 土壌区の特徴

この土壌区は未広統に属する。表土の厚さは20cm内外でやや厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため、耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰中、苦土中、加里少・燐酸中、酸度中で養分の豊否中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。また一部は山林となっている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いため深耕を行なうこと。また石灰、燐燐などの土壌改良資材の増施により自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分布

北海道白糠郡白糠町末広、眺、泊別、神の沢、住良、滝ノ上、左股、右股、二股、上茶路、南茶路、縫別、御仁田

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和48年3月31日

御 仁 田 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量12～14%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度1～3である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度2.0～2.2で中。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量8～10%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。0.3～3cm程度の半風化角、円小礫あり。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.9～2.1で中。pH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦判然である。

第3層は30cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4～6、彩度7～8である。0.3～3cm程度の半風化角、円小礫に富む。発達弱度の塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度1.9～2.1で中。pH(H₂O)5.8前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 白糠町御仁田(試坑78)

第1層	0～18cm	腐植に頗る富む、灰褐色(10YR3/2)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度2.1で中。pH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第2層	18～30cm	腐植に富む、黄褐色(10YR4/4)のSL。0.3～3cm程度の半風化角、円小礫あり。発達弱度の細塊状構造。小孔あり、ち密度2.0で中。pH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第3層	30cm～	腐植を欠く。黄褐色(10YR5/8)のSL。0.3～3cm程度の半風化角、円小礫富む。発達弱度の塊状構造。小孔含む。ち密度2.0で中。pH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～18	10.3		15.9	33.7	43.5	6.9	L			7.58	0.57	13	13.1
2	18～30	12.6		28.8	54.4	15.4	1.4	SL			5.18	0.34	15	9.0
3	30～	7.4		27.1	45.6	23.8	3.5	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収 係 数	有効態 燐 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.4	12.5	36.7	10.5	0.4	0.3	28.6	2.134	4.7
2	5.9	4.9	5.6	28.6	3.9	0.3	0.1	13.6	2.312	4.7
3	5.8	4.6	5.0	18.8	3.9	0.7	0.4	20.7	1.814	4.1

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統としては泊別統、左股統があるが、それぞれ堆積様式が異り、それぞれ本統とは区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／水積（扇状堆土）

B 地 形

緩傾斜地

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。また一部は山林となつている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐肥などの土壌改良資材の増施をはかり、併せて深耕をおこない根圏域の拡大に努めること。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町御仁田、中茶路、大苗、鍛高、南上茶路、上庶路、中央、中庶路、神の沢

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
御 仁 田 - 御 仁 田	III fn II tis

② 土壤区別説明

御仁田統一御仁田区

示性分級式(畑)

土壌	(耕)	(表)	(表)	(表)	(土)	(透)	(保)	(湿)	(白)	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(有)	(物)	(災)	(地)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)							
生	表	表	表	土	透	保	湿	然	保	固	土	層	分	置	有	微	酸	障	有	物	災	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐							
産	効	耘	土	土	地	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	物	的	害	冠	す	然	斜	為										
力	の	の	の	の	の	の	の	乾	乾	沃	力	力	態	量	量	量	量	害	質	障	害	水	り	の	傾	傾										
可	層	磔	粘	土	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	害	障	害	害	の	危	危	方											
能	厚	含	難	着	硬	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	害	障	害	害	の	危	危	方											
性	等	深	性	性	さ	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	害	障	害	害	の	危	危	方											
等	深	性	性	さ	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	量	害	障	害	害	の	危	危	方											
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	害	障	害	害	の	危	危	方											
	t	d	g	p		w			f			n						i		a		s				e										
Ⅲ					1	1	1		1	1	1		2	4	3		3	3	2	2	1	3		1	2		1	1		2	—	—		1	1	2
簡略分級式 Ⅲfn tis																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は御仁田統に属する。表土の厚さは20cm内外でやや厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力大、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低。作土の養分状態は石灰少、苦土少、加里中、燐酸中、酸度強で養分の豊否少である。除々やや困難な物理的障害性がある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。また一部は山林となつている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いため深耕を行なうこと。また石灰、燐燐等の土壤改良資材の増施により自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分布

北海道白糠郡白糠町御仁田、中茶路、大苗、鍛高、南上茶路、上庶路、中央、中庶路、神の沢

記載責任者 上坂 晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和48年3月31日

左 股 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量10～12%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに2～4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度21～23で中。PH(H₂O) 5.6前後。下層との境界平坦判然である。M_e-1a、2a層。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量9～11%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度19～21で中。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界平坦判然である。

第3層は厚さ15～20cmで腐植含量7～9%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。1～3cm程度の未風化半角小礫を含む。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔含む。ち密度20～22で中。PH(H₂O) 5.6前後。下層との境界平坦判然である。

第4層は50cm以下で腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度4～6、彩度5～7である。1～3cm程度の未風化半角小礫に頗る富む。単粒状。PH(H₂O) 5.2前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地)

白糠町左股

(試坑40)

第1層	0～17 cm	腐植に頗る富む、黄褐(10YR3/3)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度22で中。PH(H ₂ O) 5.6。調査時の湿り乾。層界平坦判然。M _e -1a、2a層。
第2層	17～33 cm	腐植に頗る富む、黄褐(10YR3/4)のL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔含む。ち密度20で中。PH(H ₂ O) 5.5。調査時の湿り乾。層界平坦判然。
第3層	33～50 cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のL。1～3cm程度の未風化半角小礫を含む。発達中度の細塊状構造。小孔含む。ち密度21で中。PH(H ₂ O) 5.6。調査時の湿り乾。層界平坦判然。
第4層	50～	腐植を欠く、黄褐(10YR5/6)のL。1～3cm程度の未風化半角小礫に頗る富む。単粒状。PH(H ₂ O) 5.2。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比 重	全炭 素 %	全窒 素 %	炭素率	底 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	4.8		7.7	43.5	38.6	10.2	L			6.52	0.49	13	11.3
2	17~33	7.8		7.4	38.4	44.5	9.7	L			6.24	0.51	12	10.8
3	33~50	8.3		16.0	35.5	37.8	10.7	L			4.78	0.37	13	8.3
4	50~	7.6		17.8	39.4	27.0	15.8	L			-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態 P ₂ O ₅ mg/100g
	H ₂ O	K ₂ O			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	5.0	1.8	26.1	14.7	0.5	0.1	56.3	1.066	6.2
2	5.5	4.8	1.8	25.0	9.3	0.4	0.1	37.2	1.804	3.5
3	5.6	4.5	5.5	33.9	9.3	0.3	0.2	27.4	1.894	3.5
4	5.2	4.1	27.0	32.7	12.6	1.4	0.2	38.5	1.396	3.5

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統としては泊別統、御仁田統があるがそれぞれ堆積様式、母材が異り、それぞれ本統とは区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山灰）／ 半固結水成岩（頁岩）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／ 崩積

B 地 形

緩傾斜地

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林となっている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐などを施用し併せて深耕を行うこと。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町左股、二股、滝の上。

調査及び記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
左 股 - 左 股	II dfnis

② 土壌区別説明

左 股 統 - 左 股 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	土 表 有 効 土 層 厚 度	耕 起 土 層 厚 度	耕 起 土 層 粘 着 性	土 地 乾 燥 性	透 水 性	保 湿 性	自 然 肥 力	固 定 力	養 分 状 態	置 換 性	苦 土 含 量	加 酸 性	微 酸 性	有 害 物 質	障 害 性	物 理 的 障 害	増 冠 水 危 険 度	地 す べ り 危 険 度	傾 斜 傾 斜 度	自 然 傾 斜 度	人 為 傾 斜 度	侵 蝕 性	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性		
t d g P				W			f		n					i	a	s										
II I II I I 1 1 1	I 1 2 1	II 2 2 2	II 1 2 3 2 1 2	II 1 2	I 1 1	II 2 --	I 1 1 2																			
簡略分級式 II dfnis																										

A 土壌区の特徴

この土壌区は左股統に属する。表土の厚さは30cm内外で厚い。有効土層は50cm内外でやゝ深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態は

中で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰多、苦土中、加里少、磷酸中、酸度中で養分の豊否中である。除去や、困難な物理的障害性がある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林となつている。

C 地力保全上の問題点

石灰、燐燐などの土壤改良資材の増施に努め、自然肥沃度、養分の豊否などの向上をはかること。なお併せて深耕を行うこと。

D 分 布

北海道白糠郡白糠町左股、二股、瀧ノ上。

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和48年3月31日

縫 別 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17~22cmで腐植含量9~11%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度2.1~2.3で中。PH(H₂O) 5.8前後。下層との境界平坦判然である。M_e-1a、2a層。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量8~10%、土性はLiCである。色は10YRで明度彩度ともに2~4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.7~1.9で疎~中。PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界平坦明瞭である。

第3層は厚さ15~20cmで腐植含量5~7%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.6~1.8で疎PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界平坦判然である。

第4層は55cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4~6、彩度3~5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.7~1.9で疎~中。PH(H₂O) 6.0前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 白糠町縫別 (試坑68)

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む、灰褐(10YR2.5/2)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度2.2で中。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦判然。M _e -1a, 2a層。
第2層	20~36cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/3)のLiC。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第3層	36~55cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/3.5)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度1.7で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第4層	55cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR5/4)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粗 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	61		59	40.1	426	114	L			601	0.58	10	104
2	20~36	14.1		5.1	34.4	307	298	LiC			572	0.50	11	99
3	36~55	11.5		10.1	64.6	245	08	SL			384	0.29	13	66
4	55~	78		63	65.9	231	47	SL			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 P ₂ O ₅ mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	58	5.0	1.8	240	105	05	0.1	438	1.342	60
2	6.0	5.1	1.3	30.0	11.4	1.7	0.1	380	2.076	8.1
3	6.0	4.6	1.9	28.5	8.1	0.7	0.1	284	2.018	3.8
4	6.0	4.9	4.0	25.0	9.8	0.7	0.2	392	1.636	4.4

A-2 他の土壌統との関係

本統は他の土壌統と堆積様式が異り、独立統である。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山灰）／非固結水成岩（泥）

A-4 堆積様式

緩傾斜地

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐燐などの土壌改良資材の増施をはかり、併せて深耕をおこない根圏域の拡大に努めること。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町縫別、新縫別、南大曲、南上茶路、二股、右股、左股

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
縫 別 - 縫 別	II t f n s

(2) 土壌区別説明

恋 問 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量4～6%、土性はSLである。色は10YRで明度2～4、彩度1～2である。礫なし。発達弱度の粒状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.9～2.1で中。PH(H₂O) 5.8前後。下層との境界平坦判然である。Me-1a, 2a層。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量1～3%、土性はSである。色は10YRで明度2～4彩度1～3である。礫なし。単粒状。ち密度1.0～1.2で極疎～疎。PH(H₂O) 6.0前後。下層との境界平坦漸変。海砂層。

第3層は25cm以下で腐植を欠く、土性はSである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。礫なし。単粒状。ち密度7～9で極疎。PH(H₂O) 6.4前後。海砂層。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 白糠町恋問 (試坑2)

第1層	0～12cm	腐植に富む、黒色(10YR3/1)のSL。礫なし。発達弱度の粒状構造。小孔あり。ち密度2.0で中。PH(H ₂ O) 5.8。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-1a, 2a層。
第2層	12～25cm	腐植あり、灰褐(10YR3/2)のS。礫なし。単粒状。ち密度1.1で疎。PH(H ₂ O) 6.0。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。海砂層。
第3層	25cm～	腐植を欠く、黄褐(10YR4/4)のS。礫なし。単粒状。ち密度8で極疎。PH(H ₂ O) 6.4。調査時の湿り乾。海砂層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒徑組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	21		460	271	225	44	SL			325	0.23	14	56
2	12~25	09		837	138	1.7	0.8	S			1.11	0.08	14	19
3	25~	04		949	44	0.7	0.0	S			-	-	-	-

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 P ₂ O ₅ mg/100g
	H ₂ O	K ₂ O			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	4.7	2.5	9.2	2.1	2.5	0.1	22.8	4.88	4.7
2	6.0	4.7	1.9	5.0	1.3	0.8	0.1	26.0	2.94	1.6
3	6.4	4.8	1.3	2.9	0.6	0.4	0.0	20.7	1.52	2.3

A-2 他の土壌統との関係

本統は海成沖積土のため独立統である。

A-3 母材

非固結火成岩（火山灰）／非固結水成岩（海砂）

A-4 堆積様式

風積（火山性）／水積（海成）

B 地形

平坦

C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は過湿のため原野となっている所もある。

E 農業上の留意事項

作土直下から海砂になつているので過干のおそれが多く、また石灰、加里に乏しく、これらの増施をはかる必要があり、また栽培作物についても選択が必要と思われる。

F 分布

北海道白糠郡白糠町恋問海岸

分の豊否の少である。また過干のおそれが多い。

植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は原野となつている。

地力保全上の問題点

過干のおそれが多いので栽培作物の選択に留意すること。また石灰、燐などの土壌改良資材を増施し自然肥沃度の向上をはかること。

分 布

北海道白糠郡白糠町恋問海岸

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和38年3月31日

川 西 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量4~6%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.7~1.9で疎〜中。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ25~30cmで腐植を欠く、土性はSiCLである。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.5~1.7で疎。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦漸変である。

第3層は45cm以下で腐植を欠く、土性はSiCLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.9~2.1で中。PH(H₂O)5.9前後。

代 表 的 断 面 形 態

(如)

(所在地) 白糠町川西共栄(試坑81)

第1層	0~18cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/4)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦判然。
第2層	18~45cm	腐植を欠く、黄褐(10YR3/4)のSiCL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔あり。ち密度1.6で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	45cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR4/4)のSiCL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔あり。ち密度2.0で中。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	6.1		2.7	34.3	48.5	14.5	L			3.25	0.31	11	5.6
2	18~45	5.9		0.3	21.6	56.0	22.2	SiCL			—	—	—	—
3	45~	5.9		0.3	24.4	53.8	21.5	SiCL			—	—	—	—

層位	PH		直換酸 度 Y ₁	塩基直換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	5.0	1.3	28.4	20.2	0.8	0.7	71.1	818	13.0
2	6.0	4.6	3.0	32.5	24.4	3.0	0.8	75.1	1022	17.8
3	5.9	4.4	1.9	33.4	24.4	2.5	0.7	73.1	1014	13.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として新興統があるが、下層の土性が異り、本統とは区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(泥)

A-4 堆積様式

水 積(河成) / 水 積(河成)

B 地 形

平 担

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有機物を施用すること。河川改修を行うこと。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町茶路川、庶路川、和天別川流域

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和48年 3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
川 西 - 川 西	II a

② 土壌区別説明

川 西 統 - 川 西 区

示性分級式(畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の耕起の容易さ	耕起の土壌の粘着性	表土の乾燥の程度	土壌の水分の程度	自然肥力の程度	固定力の程度	土壌の塩基状態	養分の豊富さ	置換の苦しさ	有効態の量	微酸要素の量	障害物の有害性	物理的障害の無性	増冠水の危険性	地すべりの危険性	傾斜の方向	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕の程度	耐風蝕性	耐水蝕性	
t d g p					W		f		n					i		a		S				e		
II	I	I	I	I	1 2 1	I	1 1 1	I	1 2 1	I	1 2 1 1 1 2	I	1 1	II	2 1	I	1	—	—	I	1 1 1			
簡略分級式 II a																								

A 土壌区の特徴

この土壌区は川西統に属する。表土の厚さは45cm内外で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起・碎土に容易である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良で自然肥沃度は高い。作土の養分状態は石灰多、苦土中、加里多、磷酸多、酸度中で養分の豊富多である。増冠水の災害を受ける危険性が多少ある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

豪雨により増冠水の災害を受ける危険性が多少あるので、堤防の設置等河川改修を行うこと。

D 分布

北海道白糠郡白糠町茶路川、庶路川、和天別川流域。

記載責任者 上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和48年3月31日

本 郷 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量6～8%、土性はLiCである。色は10YR明度、彩度ともに2～4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。鉄の点状及び膜状の酸化沈積物を含む。ち密度19～21で中。PH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量5～7%、土性はHCである。色は2.5Yで明度2～4彩度1～2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。鉄の点状及び脈状の酸化沈積物に富む。ち密度21～23で中。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。

第3層は厚さ20～25cmで腐植含量2～4%、土性はLiCである。色は2.5Yで明度4～6、彩度1～3である。礫なし。発達弱度の柱状構造。孔隙小孔あり。鉄の点状及び脈状の酸化沈積物に頗る富む。ち密度17～19で疎～中。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦判然である。

第4層は60cm以下で腐植含量6～8%、土性はCL(触感)である。色は10YRで明度1～3、彩度1～2である。礫なし。連結状。孔隙細孔あり。鉄の点状及び脈状の酸化沈積物含む。ち密度17～19で疎～中。

代 表 的 断 面 形 状

(畑)

(所在地)白糠町駒越(試坑109)

第1層	0～18cm	腐植に富む、黄褐色(10YR3/3)のLiC。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。鉄の点状、膜状の酸化沈積物を含む。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	18～38cm	腐植に富む、黒色(2.5Y3/1)のHC。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。鉄の点状、脈状の酸化沈積物に富む。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第3層	38～60cm	腐植を含む、灰色(2.5Y5/2)のLiC。礫なし。発達弱度の柱状構造。小孔あり。鉄の点状、脈状の酸化沈積物に頗る富む。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り湿。層界平坦判然。
第4層	60cm～	腐植に富む、黒色(10YR2/1)のCL(触感)。礫なし。連結状。細孔あり。鉄の点状、脈状の酸化沈積物を含む。ち密度18で疎。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭 素%	全窒 素%	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	7.9		2.3	14.8	42.5	40.4	LiC			4.08	0.34	1.2	7.1
2	18~38	10.0		0.2	6.2	39.2	54.4	HC			3.50	0.26	1.4	6.1
3	38~60	8.3		1.1	15.0	40.7	43.2	LiC			1.70	0.11	1.6	2.9

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 炭 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.3	5.3	40.7	21.1	5.8	0.4	51.8	1.368	4.8
2	5.4	4.2	5.3	50.9	32.8	2.5	0.3	64.4	1.608	3.2
3	5.5	4.5	0.3	39.2	20.6	8.1	0.3	52.6	1.414	3.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては東茶路統があるが、色層序、腐植層序が異り、本統とは区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(泥)

A-4 堆積様式

水 積(河成) / 水 積(河成)

B 地 形

平 担

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

過湿のおそれがあるので明暗渠排水を行うこと。また豪雨により増、冠水の災害を受ける危険性が多少あるので河川改修などを行うこと。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町本郷、河原、下和天別、馬主来、泊別、下庶路、西庶路
調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

北海道白糠郡白糠町本郷、河原、下和天別、馬主来、泊別、下庶路、西庶路

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和48年3月31日

新 興 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25~30cmで腐植含量3~5%、土性はCLである。色は10YRで明度、彩度ともに2~4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度1.7~1.9で疎~中。PH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦漸変である。

第2層は28cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度3~5、彩度5~7である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔富む、小孔あり。ち密度1.4~1.6で疎。PH(H₂O)5.7前後。川砂と粘土の互層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)阿寒町中阿寒(試坑5)

第1層	0~28cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/3)のCL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第2層	28cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR4/6)のSL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔富む、小孔あり。ち密度1.5で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半乾。川砂と粘土の互層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~28	4.7		1.4	34.5	43.7	20.4	CL			2.79	0.29	10	4.8
2	28~	3.5		1.4	80.6	15.0	3.0	SL			—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和 数 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.3	2.5	29.4	19.5	2.6	0.9	66.3	58.4	19.0
2	5.7	4.5	1.3	18.6	13.9	2.5	0.4	74.7	52.2	11.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては川西統があるが、下層の土性が異り、本統とは区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(砂)

A-4 堆積様式

水 積(河成) / 水 積(河成)

B 地 形

平 担

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植が少ないので堆肥の施用に努めること。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町茶路川、庶路川、和天別川流域。

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
新 興 - 新 興	II a

② 土壌区別説明

新 興 統 - 新 興 区

東 茶 路 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量4～6%、土性はCLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.9～2.1で中PH(H₂O) 5.2前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ5～10cmで腐植を欠く、土性はSiCLである。色は5YRで明度3～5、彩度5～7である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙小孔含む。鉄の集積層。ち密度1.7～1.9で疎～中。PH(H₂O) 5.0前後。下層との境界平坦判然である。

第3層は厚さ20～25cmで腐植を欠く、土性はSiCLである。色は5Yで明度4～6、彩度1～3である。礫なし。連結状。孔隙小孔含む。鉄の管状の酸化沈積物に富む。ち密度1.5～1.7で疎。PH(H₂O) 5.0前後。下層との境界平坦判然である。

第4層は47cm以下で腐植を欠く、土性はSL(触感)である。色は2.5Yで明度4～6、彩度1～2である。礫なし。連結状。孔隙小孔含む。鉄の管状酸化沈積物に富む。ち密度1.8～2.0で中。

代表的断面形態

(畑)

(所在地)

白糠町東茶路

(試坑122)

第1層	0～20cm	腐植を含む、黄褐(10YR 3/4)のCL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度2.0で中。PH(H ₂ O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	20～26cm	腐植を欠く、黄褐(5YR 4/6)のSiCL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔含む。鉄の集積層。ち密度1.8で疎。PH(H ₂ O) 5.0。調査時の湿り湿。層界平坦判然。
第3層	26～47cm	腐植を欠く、灰色(5Y 5/2)のSiCL。礫なし。連結状。小孔含む。鉄の管状酸化沈積物に富む。ち密度1.6で疎。PH(H ₂ O) 5.0。調査時の湿り湿。層界平坦判然。

第4層	47cm~	腐植を欠く、灰色(2.5Y5/1)のSL(触感)。礫なし。連結状。小孔含む。鉄の管状酸化沈積物に富む。ち密度1.9で中。調査時の湿り湿。
-----	-------	--

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.8		5.7	39.6	37.9	16.8	CL			2.59	0.22	12	4.5
2	20~26	4.8		0.9	28.4	48.3	22.4	SiCL			-	-	-	-
3	26~47													

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.5	3.3	20.8	11.8	1.7	0.1	56.7	854	8.8
2	5.0	4.1	14.4	25.9	13.9	3.0	0.2	53.7	962	5.6
3										

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては本郷統があるが、色層序、腐植層序が異り、本統とは区別される。

A-3 母材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(砂)

A-4 堆積様式

水積(河成) / 水積(河成)

B 地形

平担

C 気候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

豊否中である。

豪雨による、増冠水の災害を受ける危険性が多少ある。また過湿のおそれがある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いため深耕をおこない根圏域の拡大に努めること、また過湿のおそれがあるので排水をおこなうこと。また豪雨による増冠水の危険性があるので河川改修などをおこなうこと。

D 分 布

北海道白糠郡白糠町茶路川、和夫別川、庶路川、馬主来川流域

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和48年 3月31日

和 天 別 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17～22cmで腐植含量14～16%、土性はLである。色は7.5YRで明度彩度ともに2～4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.3～1.5で疎。PH (H₂O) 4.9前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ20～25cmでヨシ、ハンノキを主要構成植物とする分解不良の低位泥炭層。色は5YRで明度1～3、彩度2～4である。礫なし。ち密度9～11で極疎～疎。PH (H₂O) 4.7前後。下層との境界平坦漸変である。

第3層は4.5cm以下でヨシ、ハンノキを主要構成植物とする分解不良の低位泥炭層。色は7.5YRで明度、彩度ともに2～4である。礫なし。ち密度1.1～1.3で疎。PH (H₂O) 4.9前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 白糠町和天別 (試坑97)

第1層	0～20cm	腐植に頗る富む、黄褐(7.5YR3/3)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。小孔あり。ち密度1.4で疎。PH (H ₂ O) 4.9。調査時の湿り半乾
-----	--------	--

		層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第2層	20~45cm	泥炭、黄褐(5YR2/3)のヨシ、ハンノキを主要構成植物とす分解不良の低位泥炭層。礫なし。ち密度1.0で極疎。PH(H ₂ O)4.7。調査時の湿り潤。層界平坦漸変。
第3層	45cm~	泥炭、黄褐(7.5YR3/3)のヨシ、ハンノキを主要構成植物とする分解不良の低位泥炭層。礫なし。ち密度1.2で疎。PH(H ₂ O)4.0。調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.6		7.4	38.2	40.9	13.5	L			8.1	0.74	12	15.0
2	20~45	12.9		-	-	-	-	※			31.86	2.11	15	55.1
3	45~	16.8		-	-	-	-	※			33.51	2.17	15	58.0

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/10g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.9	4.4	3.1	3.13	7.9	1.1	0.1	25.2	1.404	1.9
2	4.7	4.1	2.8	7.50	26.7	2.8	0.2	35.6	4.93	2.2
3	4.0	3.8	6.2	7.50	21.1	5.3	0.1	28.1	5.42	0.9

※ 泥炭

A-2 他の土壌統との関係

本統は他の土壌統と堆積様式が異り、独立統である。

A-3 母材

非固結火成岩(火山灰)/低位泥炭(ヨシ、ハンノキ)

A-4 堆積様式

風積(火山性)/集積(ヨシ、ハンノキ)

B 地形

平 坦

C 気 候

年平均気温 5.7℃ 年降水量 948mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は原野になっている。

E 農業上の留意事項

排水不良なので明暗渠排水を行なうこと。石灰、熔燐など土壌改良資材の増施をはかること。

F 分 布

北海道白糠郡白糠町和天別川、馬主来川流域、下茶路・宮下

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和48年 3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
和天別一和天別	Ⅲwn Ⅱtfa

② 土壌区別説明

和天別統一和天別区

示性分級式(畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫の含量	耕土の難易	(表土の粘性)	(表土の乾硬性)	(表土の乾硬性)	(透水性)	(保水性)	(湿度)	自然肥力	(保肥力)	(固定力)	(土層の塩基状態)	養分豊富	(置換性石灰含量)	(苦土)	(加里)	(有効態燐)	(微量要素)	(酸害)	(物理的障害)	(有害物質の有無)	災害	(増冠水の危険度)	(地すべりの危険度)	傾斜	(自然傾斜)	(傾斜方向)	(人為傾斜)	侵入	(耐蝕性)	(耐風蝕性)				
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ
簡略分級式		Ⅲwn		Ⅱtfa																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は和天別統に属する。表土の厚さは20cm内外でやゝ厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起・砕土は容易である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態

不良で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰少、苦土中、加里少、磷酸少、酸度強で養分の豊
否少である。また過湿のおそれが多い。豪雨により増冠水の災害を受ける危険性も多少ある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は原野となつている。

C 地力保全上の問題点

過湿なので明暗渠排水を行い、併せて石灰、熔燐などの土壤改良資材を増施し自然肥沃度の向
上をはかること。また豪雨により増冠水の災害を受ける危険性があるので河川改修などを行なう
こと。

D 分 布

北海道白糠郡白糠町和天別川、馬主来川流域、下茶路、宮下

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和48年 3月31日

3. 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

(畑)

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
馬主来	馬主来-馬主来 大平-大平 高台-高台 泊別-泊別 末広-末広 御仁田-御仁田 左股-左股 縫別-縫別	1,455	火山灰土壌で全般的に腐植層は厚いが、作土の厚さが浅くかつ塩基が不足している。	土壌改良資材施用 漸次深耕
窓問	窓問-窓問	20	海成沖積土壌で土性が粗く、過干のおそれが多い。	有機物施用 施肥の合理化 耕種肥培法の改善
川西	川西-川西 新興-新興	980	沖積土壌で全般的に腐植層が浅い。	土壌改良資材施用 有機物施用 河川改修
本郷	本郷-本郷 東茶路-東茶路	356	沖積土壌で全般的に湿地型で排水不良地である。	明暗渠排水 土壌改良資材施用 河川改修
和天別	和天別-和天別	180	泥炭土壌で排水不良地帯である。	明暗渠排水 土壌改良資材施用 河川改修 客土

2) 保全対策地区説明

＜ 馬 主 来 保 全 対 策 区 ＞

(1) 分 布

市町村名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
白糠郡白糠町	1.455	馬主来、大平、高台、泊別、末広、御仁田、左股、縫別

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は火山性土壌地域で、一般に腐植層は厚いが作土層は浅くかつ塩基、磷酸に欠乏している地域を取りまとめたものである。従つて耕起時漸次深耕をはかり、併せて石灰燐などの土壌改良資材を施用し地力の増進をはかることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
土 壤 改 良 資 材 施 用	馬主来、大平、高台 泊別、末広、御仁田 左股、縫別	石灰、磷酸 苦土、加里 等の増地	炭カル、磷酸の施用	
深 耕	(1.455)	漸次深耕	指 導	

＜ 恋 問 保 全 対 策 区 ＞

(1) 分 布

市町村名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
白糠郡白糠町	20	恋 問

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は海岸に沿つて分布する砂丘地でハマナス、スズラン等が自生しているが一部放牧地となつている。腐植層浅く、火山灰を狭むが殆んど海砂よりなり、保水性小、透水性過良である。養分はいずれも乏しい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、形式、数量等	備 考
有機物施用	恋 問	堆 厩 肥 増 肥	2～3 t (10a)	
土 壤 改 良 資 材 施 用		石灰、磷酸、苦 土、加里等の増肥	炭カル、燐燐の施用	
耕 種 肥 培 法 の 改 善		固形肥料の使用	指 導	
	(20)			

＜ 川 西 保 全 対 策 区 ＞

(1) 分 布

市町村名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
白糠郡白糠町	980	川西、新興、

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は沖積土壌地域で排水良好で本町においてもつとも生産力の高い土壤である。一般に腐植が少なくかつ塩基、磷酸に欠乏している地域をとりまとめたものである。従つて有機物を施用し併せて石灰、熔燐などの土壤改良資材を施用し地力の増進をはかることが必要である。また豪雨により増冠水の災害を受けやすいので河川改修も必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
有機物施用	川西、新興、 (980)	堆厩肥増肥	2～3 t (10a)	
土壤改良資材施用		石灰、磷酸 苦土、加里 等の増施	炭カル、熔燐の施用	
水害防止		河川改修	工事費の助成	

＜ 本 郷 保 全 対 策 区 ＞

(1) 分 布

市町村名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
白糠郡白糠町	356	本郷、東茶路

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は沖積土壌地域で、排水不良地帯を取りまとめたものである。従つて明暗渠排水をおこなつて速やかに過剰水の排水をおこなうこと、また有機物を施用し併せて石灰、熔燐などの土壤改良資材を施用し地力の増進をはかることも必要である。豪雨により増冠水の災害を受けやすいので河川改修も必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備 有
排水	本郷、東茶路 (356)	明暗渠排水	工事費の助成	
有機物施用		堆厩肥増肥	2～3 t (10a)	
土壌改良資 材 施 用		石灰、磷酸 苦土、加里 等の増施	炭カル、熔燐の施用	
水害防止		河川改修	工事費の助成	

< 和天別保全対策区 >

市町村名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
白糠郡白糠町	180	和天別

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は泥炭土壌地域で、大部分はかなり湿生を呈しているため、まず明暗渠排水を行い、その後土壌改良資材の施用、客土の実施をはかる必要がある。また豪雨により増冠水の災害を受けやすいので河川改修も必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備 考
排水	和天別 (180)	明暗渠排水	工事費の助成	
土壌改良資 材 施 用		石灰、磷酸 苦土、加里 等の増施	炭カル、熔燐の施用	
客 土		馬 搬	工事費の助成	
水害防止		河川改修	工事費の助成	

土 壤 分 析 成 績 (畑)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										現在におけ 100cc	
					燻 風 乾 物 中 %	屈乾細土中		細土無機物中					土 性	容積重 g	固相容積 cc	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂合 計 %	シル ト %	粘 土 %				
馬主来	馬主来	134	1	0~15	6.1	11.6	8.8	39.3	48.1	41.4	10.5	L				
			2	15~30	12.3	17.1	5.9	30.5	36.4	38.1	25.5	LiC				
			3	30~44	17.3	13.6	7.9	38.8	46.7	53.3	0.0	SiL				
			4	44~	13.9	—	8.6	55.5	64.1	35.9	0.0	L				
	大 平	143	1	0~15	6.1	8.0	6.1	39.2	45.3	44.1	10.6	L				
			2	15~26	11.8	10.2	6.5	47.7	54.2	43.8	2.0	L				
	高 台	73	1	0~15	6.1	10.2	6.7	34.9	41.6	47.5	10.9	SiL				
			2	15~23	10.6	8.7	6.6	45.0	51.6	45.5	2.9	SiL				
			3	23~28	13.8	10.1	7.9	56.7	64.6	35.4	0.0	L				
			4	28~43	12.3	—	10.0	46.1	56.1	39.7	4.2	L				
			5	43~	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	泊 別	13	1	0~11	10.1	20.9	0.4	39.7	40.1	52.2	7.7	SiL				
			2	11~12	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
			3	12~15	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
			4	15~29	9.2	14.8	19.9	33.6	53.5	41.1	5.4	L				
			5	29~53	8.6	5.2	34.1	44.7	78.8	20.2	1.0	S L				
			6	53~	7.0	—	34.5	38.4	72.9	20.7	6.4	S L				
	末 広	18	1	0~18	4.8	10.6	5.8	40.4	46.2	42.6	11.2	L				
			2	18~21	8.6	10.9	6.7	36.0	42.7	45.5	11.8	SiL				
			3	21~33	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
			4	33~40	10.3	11.3	8.2	54.0	62.2	37.2	0.6	L				
			5	40~45	8.9	—	7.1	62.2	69.3	26.8	3.9	S L				
			6	45~65	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	御仁田	78	1	0~18	10.3	13.1	15.9	33.7	49.6	43.5	6.9	L				
			2	18~30	12.6	9.0	28.8	54.4	83.2	15.4	1.4	S L				
			3	30~	7.4	—	27.1	45.6	72.7	23.8	3.5	S L				
	左 股	40	1	0~17	4.8	11.3	7.7	43.5	51.2	38.6	10.2	L				
			2	17~33	7.8	10.8	7.4	38.4	45.8	44.5	9.7	L				
3			33~50	8.3	8.3	16.0	35.5	51.5	37.8	10.7	L					
4			50~	7.6	—	17.8	39.4	57.2	27.0	15.8	L					
縫 別	68	1	0~20	6.1	10.4	5.9	40.1	46.0	42.6	11.4	L					
		2	20~36	14.1	9.9	5.1	34.4	39.5	30.7	29.8	LiC					
		3	36~55	11.5	6.6	10.1	64.6	74.7	24.5	0.8	S L					
		4	55~	7.8	—	6.3	65.9	72.2	23.1	4.7	S L					

性			化 学 性												
る 理 学 性 中 谷			PH		置換酸度 Y ₁	有 機 物			塩 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 收 係 数	有 効 燐 酸 mg/ 100g
水 分 含 積 cc	空 気 含 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
			6.0	5.3	1.3	6.70	0.43	16	25.9	437	17	5	60.2	1,386	4.3
			5.7	4.7	1.9	9.89	0.54	16	44.6	342	9	4	27.4	2,328	tr
			5.8	5.0	1.3	7.83	0.46	17	45.2	167	7	3	13.3	2,480	1.4
			6.0	5.5	0.6	—	—	—	21.7	71	25	3	11.5	2,382	2.4
			5.9	5.1	1.2	4.64	0.29	16	19.6	201	17	7	36.7	1,592	2.9
			5.8	5.0	0.8	5.88	0.34	17	22.1	142	9	6	23.1	2,232	3.2
			6.0	5.0	0.6	5.90	0.42	14	22.5	248	9	6	39.1	1,546	5.0
			6.3	5.3	0.6	5.01	0.35	14	21.7	201	9	4	33.2	1,982	4.1
			6.4	5.3	0.3	5.36	0.41	14	31.7	248	9	6	27.8	2,312	4.1
			6.3	5.3	0.6	—	—	—	23.4	83	9	15	12.8	2,142	3.8
			5.1	4.4	8.2	1206	0.56	22	51.1	103	64	5	7.2	2,312	2.3
			5.2	4.5	8.0	8.54	0.50	17	40.9	71	25	7	6.1	2,400	1.6
			5.5	4.8	2.0	3.00	0.20	15	18.8	15	5	4	2.7	2,088	1.9
			5.5	4.7	1.9	—	—	—	15.8	12	17	7	2.5	1,716	6.5
			5.4	4.9	1.3	6.14	0.49	13	17.7	177	11	6	35.6	1,238	7.2
			6.0	5.1	1.3	6.30	0.47	13	29.2	295	7	3	36.0	2,080	3.8
			6.2	5.1	1.3	6.52	0.45	15	33.9	211	6	2	22.1	2,214	2.5
			6.0	5.0	1.3	—	—	—	20.8	142	9	4	24.5	1,938	3.8
			6.0	4.4	12.5	7.58	0.57	13	36.7	295	9	12	28.6	2,134	4.7
			5.9	4.9	5.6	5.18	0.34	15	28.6	110	6	5	13.6	2,312	4.7
			5.8	4.6	5.0	—	—	—	18.8	108	14	20	20.7	1,814	4.1
			5.6	5.0	1.8	6.52	0.49	13	26.1	413	11	6	56.3	1,066	6.2
			5.5	4.8	1.8	6.24	0.51	12	25.0	260	9	5	37.2	1,804	3.5
			5.6	4.5	5.5	4.76	0.37	13	33.9	261	6	11	27.4	1,894	3.5
			5.2	4.1	27.0	—	—	—	32.7	354	28	10	38.5	1,396	3.5
			5.8	5.0	1.8	6.01	0.58	10	24.0	295	11	5	43.8	1,342	6.0
			6.0	5.1	1.3	5.72	0.50	11	30.0	319	34	3	38.0	2,076	8.1
			6.0	4.6	1.9	3.84	0.29	13	28.5	226	14	3	28.4	2,018	3.8
			6.0	4.9	4.0	—	—	—	25.0	275	14	8	39.2	1,636	4.4

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学										現地におけ 100cc	
					礫風乾細土中			細土無機物中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc	
					(風 乾 物 中) %	水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %				
恋 問	恋 問	2	1	0~12	2.1	5.6	46.0	27.1	73.1	22.5	4.4	SL				
			2	12~25	0.9	1.9	83.7	13.8	97.5	1.7	0.8	S				
			3	25~	0.4	-	94.9	4.4	99.3	0.7	0.0	S				
川 西	川 西	81	1	0~18	6.1	5.6	2.7	34.3	37.0	48.5	14.5	L				
			2	18~45	5.9	-	0.3	21.6	21.9	56.0	22.2	SiCL				
			3	45~	5.9	-	0.3	24.4	24.7	53.8	21.5	SiCL				
	新 興	阿寒 5	1	0~28	4.7	4.8	1.4	34.5	35.9	43.7	20.4	CL				
			2	28~	3.5	-	1.4	80.6	82.0	15.0	3.0	SL				
本 郷	本 郷	109	1	0~18	7.9	7.1	2.3	14.8	17.1	42.5	40.4	LiC				
			2	18~38	10.0	6.1	0.2	6.2	6.4	39.2	54.4	HC				
			3	38~60	8.3	2.9	1.1	15.0	16.1	40.7	43.2	LiC				
	東 茶 路	122	1	0~20	3.8	4.5	5.7	39.6	45.3	37.9	16.8	CL				
			2	20~26	4.8	-	0.9	28.4	29.3	48.3	22.4	SiCL				
			3	26~47												
和 夫 別	和 夫 別	97	1	0~20	5.6	15.0	7.4	38.2	45.6	40.9	13.5	L				
			2	20~45	12.9	55.1	-	-	-	-	-	-	泥炭			
			3	45~	16.8	58.0	-	-	-	-	-	-	泥炭			

物理性			化学性												
水分 容積 cc	空氣 容積 cc	孔隙 率 %	PH		置 換 酸 度 Y ₁	有機物			塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
			H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
			5.8	4.7	2.5	3.25	0.23	14	9.2	59	51	6	22.8	488	4.7
			6.0	4.7	1.9	1.11	0.08	14	5.0	35	17	3	26.0	294	1.6
			6.4	4.8	1.3	-	-	-	2.9	18	9	2	20.7	152	2.3
			5.8	5.0	1.3	3.25	0.31	11	28.4	567	17	34	71.1	818	13.0
			6.0	4.6	3.0	-	-	-	32.5	685	59	36	75.1	1,022	17.8
			5.9	4.4	1.9	-	-	-	33.4	685	51	34	73.1	1,014	13.4
			5.2	4.3	2.5	2.79	0.29	10	29.4	546	52	43	66.3	584	19.0
			5.7	4.5	1.3	-	-	-	18.6	389	50	21	74.7	522	11.7
			5.2	4.3	5.3	4.08	0.34	12	40.7	592	117	17	51.8	1,368	4.8
			5.4	4.2	5.3	3.50	0.26	14	50.9	921	51	12	64.4	1,608	3.2
			5.5	4.5	0.3	1.70	0.11	16	39.2	579	163	13	52.6	1,414	3.2
			5.2	4.5	3.3	2.59	0.22	12	20.8	331	34	6	56.7	854	8.8
			5.0	4.1	14.4	-	-	-	25.9	390	59	8	53.7	962	5.6
			4.9	4.4	3.1	8.65	0.74	12	31.3	221	21	6	25.2	1,404	1.9
			4.7	4.1	2.8	31.86	2.11	15	75.0	748	57	8	35.6	493	2.2
			4.0	3.8	6.2	33.51	2.17	15	75.0	590	106	3	28.1	542	0.9